

平成 25 年 5 月 24 日

富山県教育委員会教育長 殿

富山県立富山工業高等学校
校長 當流谷 正博

平成 25 年度学校経営計画を別紙(様式 2・3)とともに提出します。

平成 25 年度 学校経営計画

1 学校教育目標

豊かな教養と深い技術を身につけ、自ら学び、自ら考える力を備えた、心身ともに健康で社会の変化に対応できる人間性豊かな工業人を育成する。

2 学校の特徴

(1) ものづくりの心を育む教育活動

本県における「ものづくりの中核校」として、「ものづくり学」をはじめ、地域産業との連携、資格取得、各種コンテストへの参加を通して、21 世紀の産業界をリードするスペシャリストを育成している。

(2) 地域社会に根付いた学校教育

全員参加によるインターンシップを推進する他、五福児童館祭りへの参加、電気工事ボランティアへの取り組みなど、地域社会との積極的な関わりを通してキャリア教育を推進し、職業観、勤労観を身につけた工業技術者を育成している。

(3) 活気あふれる特別活動や部活動

個性あふれ、協調性を備えた人物を育成するため、学校行事をはじめ、生徒会活動や部活動などを通して、自らの能力を積極的に発揮できるようにしている。

3 学校の現状と課題

〔現状〕

- 各学年 8 クラスの大規模校になり、異なる学習歴による学力差の拡大や、発達障害のある生徒の在籍など、生徒の多様な実態が見られるようになっている。
- 各学科では、学習意欲の高揚や将来の職業選択に向け、検定の合格や資格取得に熱心に取り組んでいる。
- 大多数の生徒が部活動に加入しており、ロボットなどのものづくりや文化活動、運動競技に積極的に取り組み、大きな成果を上げている。
- 再編統合に伴いグラウンドや体育館等の現状が部員数や活動規模に合わなくなっており、危険であるばかりでなく、地域への迷惑、練習場所の確保などの課題が山積している。
- 約7割の生徒は就職し、そのほとんどが地元の手製造業に勤務しており、離職率も低い。約3割の生徒は、各自の専門性をさらに高めるため、国公立大学をはじめ、工業系の各種学校に進学しているが、中には在学中と異なる分野で、自己の可能性を試そうとする者もいる。

〔課題〕

- 「ものづくり学」の充実に向けた学習内容や学習方法の検討を一層進める必要がある。
- 広い視野に立ってものづくりに取り組む資質を育むため、言語活動の充実など、普通科、専門学科を問わず、授業の改善を進める必要がある。
- 地域社会の人々と幅広く関わる機会を一層充実させ、地域の期待に応えていくことが必要である。
- 自己の将来像を描き、生き方・在り方についての考えを深めるようにさせるため、ふるさと教育を進めるとともに、企業研究、インターンシップ、資格取得に関わる指導などについて、内容や方法を検討し、更に充実させる必要がある。
- 多様な生徒の実態に対応できるよう、教員の生徒理解を一層進める必要がある。

(様式2)

4 学校教育計画(全日制)

項目		目標・方針及び計画	
1	学習活動 重点1	目標	○ 学習意欲の向上と学習習慣の定着を図る。
		計画	○ 「ものづくり学」の実施をはじめ、学科の枠を超えた取り組みを充実させるほか、専門教科や普通教科に関する資格取得や検定合格を推進する。 ○ 資格取得やジュニアマイスター制度、顕彰制度などの啓蒙を行う。 ○ 検定合格や資格取得を目指す学習を継続することで、学習習慣の確立や学習意欲の向上を図る。
2	学校生活 重点2	目標	○ 自発的な基本的な生活習慣の確立を促すとともに、規範意識の高揚とマナーの向上をめざす。 ○ 健康で安全な生活をするための習慣を身につけさせるとともに、健康を保持するための能力を養い、心身の発達の調和を図らせる。 ○ 心身ともに健康に活動できるよう、教育相談を行う。
		計画	○ 全教職員が、生徒指導の考え方を十分に共通理解し、教育のあらゆる場面を通して指導に努める。 ○ 家庭や関係諸機関との連携を密にし、生徒の健全な生活習慣の確立に努める。 ○ 学校安全教育(特に交通安全教育)の効果的な指導に努める。 ○ 生徒の保健に対する意識を高め、自主的に健康を管理する習慣を育成する。 ○ 生徒と教師、及び生徒相互の好ましい人間関係を育て、生徒の悩みや問題の解決に向けた助言をし、心身ともに健康な人物の形成にむけた支援を行う。
3	特別活動 重点3	目標	○ 生徒会が中心となり、代議員会を通して生徒達の意見を基に学校行事等における自主的で活発な活動を推進する。 ○ 生徒会活動や部活動を通し、自主的自律的な生活態度を養うとともに、成就感や達成感を体験させる。 ○ 日頃読書に取り組む機会の少ない生徒に、図書館の活用を指導する。
		計画	○ 生徒会とホームルームの連携を強め、アンケート調査をもとに 学校行事の内容や実施方法について、代議員会等で十分に検討し、生徒の参加意欲の向上や活性化を図る。 ○ 全員部活動加入を通して、生徒一人一人が成就感や達成感を味わえるよう、個々に目を向けた活動をめざす。また、部の運営や部室の使用、活動場所の環境整備等について自主的な改善がなされるよう指導する。 ○ 図書及び視聴覚機材の充実と利用促進を図る。

			<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒の興味関心を引き、創造性を高める図書を選定する。 ○ 読書の習慣が身につくよう、ホームルームの年間指導計画に「読書会」を設ける。
4	進路支援 重点4	目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 社会での使命を自覚させ、生徒が自己の能力・適性を見つけ出し、その役割を果たすよう自らの生き方を考え、主体的に進路選択ができるように指導する。
		計画	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学年、科と連携し、学校全体の指導を通して、生徒と保護者が満足する進路決定ができるようにする。 ○ インターンシップや工場見学、応募前職場見学を通して、生徒が企業を知り、勤労意欲や社会人のマナー等を学べるようにする。 ○ 進路希望調査、面談などにより、生徒の実態を把握するとともに、外部から講師を招いて講話会を開くなど、進路意識や職業観を養う手だてを講じる。 ○ 学年懇談会などを通して、本校の進路指導の現況を保護者に知ってもらう。 ○ 進学希望者に対して実力テスト等で各自の力を自覚させ、進学前後に必要な基礎学力と学習習慣を身につけさせる。
5	その他	目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校行事について、全体計画を立案し円滑な学校運営を行う。 ○ 奨学金貸与や食堂の管理など、生徒の福利厚生を増進を図る。 ○ PTA、教育振興会、同窓会と連携し、教育目標達成を目指す。 ○ 生徒の情報活用能力やプレゼンテーション能力を高めるため、各種検定試験対策のための学習環境や、情報関連機器の利用環境を整える。
		計画	<ul style="list-style-type: none"> ○ 奨学金貸与の周知などにより、生徒の支援を行う。 ○ 保護者の研修や広報活動を積極的に展開し、生徒と保護者のコミュニケーションの機会を増やすとともに、家庭教育や生徒を取り巻く社会問題などについて見直す機会を設ける。 ○ 教育振興会や同窓会による学校への支援体制を確立する。 ○ 各種資格検定の指導時間確保のため、学科、学年、部活動との調整を行う。 ○ 授業での情報室の利用や課題研究発表会における情報関連機器及び視聴覚機器の利用を通して、プレゼンテーション能力の育成など、情報教育の推進を支援する。 ○ 校内ネットワーク環境の充実と安定な運用を図る。

(様式 3)

5 今年度の重点課題 (学校アクションプラン)

平成 25 年度 富山工業高校アクションプラン -1-	
重点項目	学習活動 (教科指導の充実)
重点課題	工業高校生としての学力の向上
現状	<ul style="list-style-type: none">○ 各学科では、専門分野に関する検定合格や資格取得に向けた補習を行っている。また、専門分野以外の英検、数検ほか検定受検者も増加傾向にある。○ 平成 24 年度は、延べ 1594 人が各種検定や資格試験に合格しており、合格率は 69.4%、一人平均の取得資格数は 1.68 であった。
達成目標	各種検定、資格の合格率 (一人あたりの年間の検定合格または取得資格数) 合格率 70%以上 (一人平均 1.7 以上)
方策	<ul style="list-style-type: none">○ 校内指導体制の改善・充実、及び外部の専門技術者の招聘や活用を図る。○ 朝学習などの時間の有効活用により、学習時間の確保を図る。○ ジュニアマイスター制度や校内顕彰制度および単位認定制度などの周知を図る。○ 検定合格や資格取得を目指し、学習意欲の向上や学習習慣の定着につなげる。○ 学科の枠を超えた指導体制などの取り組みを検討する。

平成 25 年度 富山工業高校アクションプラン -2-	
重点項目	学校生活 (生徒指導の充実)
重点課題	自発的な基本的生活習慣の確立
現状	<ul style="list-style-type: none">○ 生徒数が大幅に増加したことで、生徒の気質も多岐にわたり、その対応に苦慮することが多くなってきた。従来の対応では、生徒指導の教育的効果を上げるまでには至らない現状がある。基本的な生活習慣 (あいさつ・身だしなみ・時間厳守等) の徹底と向上を求めるための対応策を継続的に実践する必要がある。
達成目標	全校生徒の 6 割以上が達成 (各項目ごと) 項目：あいさつ、身だしなみ、時間厳守、公共の場でのマナー
方策	<ul style="list-style-type: none">○ 入室許可制を徹底し、生徒に遅刻の防止を呼びかける。○ 校外での行動に視点を向けさせ、学校生活で学んだことを社会で実践すること (あいさつ・身だしなみ・公共の場におけるマナー) を学年、全校集会などを通じた呼びかけを徹底する。○ 本年度より、自転車車両整備に関わる指導、服装・頭髪に関わる指導において個人指導カードを活用する。○ 生活見直しアンケートを定期的 (年 3 回実施) に行い、自己の行動の見つめ直しを図り、以後の生活実践へのきっかけとする。○ スマートフォンや携帯電話等におけるネット利用の現状について、PTA との協議の場を設ける。

平成 25 年度 富山工業高校アクションプラン -3-	
重点項目	特別活動（特別活動の活性化）
重点課題	生徒会・代議員会を中心とした学校行事の活性化
現状	○ 体育大会、球技大会、富工展などの学校行事に対する生徒の意識は高く、協力的に行事を推進することができる。これまでの行事では生徒会や教師が中心的役割を果たしてきたが、代議員会等を活用して生徒達の意見を積極的に取り入れ、生徒達の自主的な計画・立案・運営を推進し一層の活性化を図る。
達成目標	体育大会、球技大会において生徒会を中心として、生徒が自主的に学校行事の企画・運営に取り組み、全校生徒が意欲的に参加し、満足できるような活動を目指す。 (※事前事後のアンケート調査における、全校生徒に対する百分率とする。)
	運営・企画に積極的な参加意識度 体育大会 70%以上、球技大会 60%以上
方策	○ 体育大会に向けて代議員会を開き、昨年の事後アンケートの結果をもとにホームルームの意見を再確認する。学校全体（生徒）の意見を集約し、プログラムや競技規則、配点方法の見直しを実施する。 ○ 球技大会について生徒会が中心となり、代議員を通じてホームルームの意見をまとめ、生徒が意欲的に参加し満足できることを目指す。

平成 25 年度 富山工業高校アクションプラン -4-	
重点項目	進路支援（進路指導の充実）
重点課題	生徒の希望に対応した進路決定
現状	○ 昨年度は、高等学校再編統合により学年が6学科8クラス編成となって初めての卒業生を送り出した。生徒一人一人に対するきめ細かな指導・援助を一層充実させ、生徒自らが進路を選択できるように、学校生活の各段階に合わせて指導すると共に、その進路先に適応し、自己実現を図っていく上で必要な諸能力（基礎学力、計画性、判断力、適応力など）の向上に努めることが重要である。
達成目標	3 学年における進路希望の達成度（就職試験 1 次内定率、進学先第 1 希望合格率）
	85%以上
方策	○ 企業訪問や情報収集を積極的に行い、生徒の就職先の確保に努める。 ○ インターンシップや応募前職場見学等を通して、生徒自らが企業についての情報を収集し、その上で就職先を決定できるようにさせる。 ○ オープンキャンパス、学校説明会など積極的に参加させ、進学先を決定させる。 ○ 資料閲覧室を利用しやすいように環境を整え、資料閲覧や相談に対応する。 ○ 面接指導、補習など工業科、普通教科の全面協力を得てきめ細かい指導をする。

(様式2)

4-2 学校教育計画(定時制)

項目		目標・方針及び計画	
(1)	学習活動 重点1	目標	<ul style="list-style-type: none">○個々の生徒の学力差が大きく、学習意欲に乏しい生徒が多いことを踏まえ、各教科・科目間の関連を図りながら、基礎的・基本的な事柄の着実な定着を目指した教育課程とする。○各教科の基礎・基本を確実に理解させることによって、基礎的な学力と工業に関する技術の習得に努めさせる。
		計画	<ul style="list-style-type: none">○工業高校の特色並びに生徒の能力や進路を考慮して教育課程を編成する。○普通教科と専門教科との調和のある教育課程を編成する。○理論と実践との関連性を深めるために、班別学習の時間数や施設設備等の有効利用を考慮した実験及び実習の内容について検討する。○学校設定科目「生活技能」に関する資格検定試験の取得向上を目指して、1年次から資格検定を受検させると同時に、専門教科の学習を生かして、個々の生徒の力に応じた補習を計画し、合格できるようにする。○学力の個人差が大きく学習指導の面に困難を生じるが、生徒全員に理解させるよう配慮する。○実験・実習や体験を伴う学習を行うことにより、生徒に興味関心を促すように考慮する。
(2)	学校生活 重点2	目標	<ul style="list-style-type: none">○社会人として必要な規則やマナーを遵守する態度の育成と規律ある基本的生活習慣の確立を目指し、自主自立の精神の醸成に努める。○健康と命の大切さを認識させ、自らの健康管理と事故防止に努める能力と態度を育成する。
		計画	<ul style="list-style-type: none">○保護者と緊密に連携し、職員全体で生徒の生活指導にあたる。○交通安全に関する行事や指導を定期的実施し、交通マナー向上や交通規則遵守を図り、事故防止に努める。○健康診断や健康相談を通して、自らの身体の状態を把握させる。○保健指導や食事指導を通して、適切な行動選択ができるように促す。○「保健だより」や「給食だより」の発行を通して、健康で安全な生活や正しい食生活に対する意識を高める。
(3)	進路支援	目標	<ul style="list-style-type: none">○多くの生徒が「働きながら学ぶ」という定時制の実態に基づき、生徒の主體的な職業観や職業意識、そして職業の選択能力をより一層、正しく深めるように指導・支援する。
		計画	<ul style="list-style-type: none">○進路に関する情報収集及び整備に努め、職業安定所など関係機関との密接な連携を図り、生徒に対する就業指導の充実を推進する。○学級担任・進路指導担当者が保護者との連携を密にしながら、面接指導等を充実させて生徒個々に適した進路指導に努める。

(4)	特別活動	目標	<ul style="list-style-type: none"> ○特別活動を通して、日々の生活を有意義に過ごすための動機付けを行う。 ○日頃読書に親しむ機会の少ない生徒に、図書館の活用を指導し、併せて職場の仕事に必要な自主的学習活動の促進を図る。
		計画	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒会（執行部・委員会・ホームルーム）の自主的な活動を促し、自主活動醸成の場とする。 ○特別活動の活性化を図り、部活動や生徒会行事に対して意欲的に参加する生徒の増加を目指す。 ○図書および視聴覚の充実と利用の促進を図る。 ○生徒の興味を引き、創造性を高める図書を選定する。 ○読書の習慣が身につくように、年間計画に読書会及び読書感想文コンクールを設ける。
(5)	その他	目標	<ul style="list-style-type: none"> ○教育目標を達成するため、全職員の共通理解のもと、定時制の特質に配慮しながら円滑な校務運営に努める。
		計画	<ul style="list-style-type: none"> ○職員間の共通理解及び伝達の徹底を図り、個々の課題に対して主務を中心として、全職員で対応する。 ○部、科、学年毎に連絡を取り合って調整を図るとともに、効果的な校務運営を図るための研究討議を十分行う。

(様式 3)

5-2 今年度の重点課題 (定時制)

平成 25 年度 富山工業高等学校アクションプラン - 1 -	
重点項目	学習活動
重点課題	学校設定科目「生活技能」による資格取得の推進
現 状	<p>高等学校卒業資格の取得を目的に入学してくる生徒が多く、工業を学ぶという目的意識を持った生徒が少ない。</p> <p>高校生としての読解力や計算能力等の基礎学力、一般教養が不足している生徒が多く、学力のばらつきも大きい。</p> <p>そこで、学校設定科目「生活技能」を導入し、個々の生徒に応じた基礎学力の向上を図っている。</p>
達成目標	全国工業高校長協会主催による資格と国家資格に合格する生徒の割合
	60%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none">・年度当初に生活実態調査、学力診断検査を行い、生徒がつまづいている段階を把握し、個々の生徒に応じた到達目標を設定する。・学力段階毎に章立てされた自作教材を使用し、学習させる。・関連する教科においても継続的に各教科、各級の小テストを行い、学習習慣を身につけさせるとともに、基礎学力の向上を図る。・「生活技能」の授業の他に、資格・検定の受検者を対象にした授業開始前、放課後補習態勢の改善と充実を図る。・社会生活に必要な基礎知識や教養を身につけさせるために、外部講師による講話等を実施する。

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

平成 25 年度 富山工業高等学校アクションプラン - 2 -	
重点項目	学校生活
重点課題	基本的な生活習慣の確立
現 状	<p>家庭生活や生育歴、社会生活状況において様々な問題点を抱える生徒が多く、学校の時間帯に合わせた生活設計が困難であったり、適応性の問題から規則やマナーの遵守に欠ける傾向にある。過去 3 年間、生徒全体の出席率は平均 95 % 前後で推移しており、授業遅刻や早退も少なくない。</p> <p>一方で生徒の中には、本校入学前に比べ、きちんとした高校生活を歩もうと努力している姿も見られる。働きながらも年間を通じ無欠席の生徒も存在する。こうした生徒たちには、毎日登校する習慣を大切にし、自分の将来を考えている向きが感じられる。このように目標と向上心を持って、自律性を育む生徒が増えることは、生徒同士の相互作用により出席状況の改善のみならず学校生活の充実へ繋がる则认为。</p>
達成目標	年間の皆勤・精勤生徒の割合： 21%以上
	*皆勤 = 一カ年の欠席が 0 日 *精勤 = 一カ年の欠席が 3 日以内

(22年度は15%、平成23年度は21%、24年度は20%)

	(22年度は15%、平成23年度は21%、24年度は20%)
方 策	<ul style="list-style-type: none">・生活状況の確認に努め、生活リズムを確立させるとともに、就業ガイダンスの充実を図る。・将来を見据えた進路指導により、日常生活の見直しを行う。・健康管理の個別指導を行い、疾病の予防・体調管理を行う。・年度末に表彰する皆勤賞・精勤賞を生徒の励みに日々の生活支援を行う。・保護者と緊密な連絡体制をとりながら、生徒の心身等の変調について、早期発見、早期対策を講じる。

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)